

標 題	おもじろ放牧組合、経営は順調です～3頭目の子牛出荷、牛舎増築～
-----	---------------------------------

(ダイジェスト)

11月15日(水)、おもじろ放牧組合(松江市玉湯町)から、3頭目となる雌子牛が島根県中央家畜市場へ出荷され、平均価格より1割安い599千円(税込)で販売されました。また、今年は2頭の親牛が相次いで出産し、牛舎が手狭になったため、自力施工により牛舎を増築するなど、順調な経営を続けています。

おもじろ放牧組合(組合長 勝田矩光氏、組合員6名)は耕作放棄地の放牧利用を主目的として、平成25年9月に設立された任意組合です。平成26年8月に1頭、平成28年11月に更に1頭繁殖用親牛を導入し、現在2頭を150aに放牧しています。今回は、平成28年度に導入した親牛から生産された雌子牛が、11月の島根県中央家畜市場に上場されました(写真1)。

2頭目の親牛は哺乳を全く行わないため、近くの畜産農家の協力を得ながら、組合員が交代で子牛に初乳から人工哺乳するなど、初期育成では大変手間をかけた子牛でした。当農業普及部は、農業技術センター技術普及部と協力して毎月巡回指導を実施し、発育確認や出荷時期の判定を行いました。

その結果、261日齢で257kgとまずまずの発育で、599千円(税込)で落札されました。組合員さんは、当該市場平均価格より1割程度安かったものの、想定内とのことで満足されていました。

また、2頭目の親牛導入および出産により手狭になった牛舎を、先日自力施工により増築されました(写真2, 3)。

今回は販売価格が安かったものの、同組合には来春出荷予定の雄子牛もいます。当農業普及部では、今後も技術普及部と協力して、市場価値の高い子牛の育成と、繁殖率向上を目指した巡回指導を続けていきたいと考えています。



写真1. 今回出荷された雌子牛



写真2. 牛舎外観



写真3. 増築部分内観